

# 古の文化

第 21 号

令和8年3月31日 編集・発行 佐野市文化協会



## 主な記事

- 会長挨拶・総会 (P2)
- 県文化振興大会・文化協会交流事業・トピックニュース (P9)
- 芸術文化ふれあい事業・団体情報交換会 (P3)
- コラム・佐野の名所旧跡案内 (P10)
- わたしたちの文化活動 (P4～P7)
- 加盟団体名簿・役員 (P11)
- 視察研修会・文化提言 (P8)
- 賛助会員紹介 (P12)
- 佐野の文化人



かきのものとのひとまろしんえい  
 絹本著色 柿本人麿神影 (小堀鞆音)  
 栃木県指定文化財 (人丸神社所蔵)



しょうほうそうじょういちじょうおおじをわたるのず  
 絹本著色 聖宝僧正渡一篠大路図 (小堀鞆音)  
 栃木県指定文化財 (佐野市郷土博物館所蔵)

## 解説

小堀鞆音は佐野市出身の日本画家です。「柿本人麿神影」は故郷小中町の人丸神社の御神影で、鞆音が竹馬の友である宮司・林守善氏の依頼により、大正12年の御開帳に急ぎ間に合わせ制作したものです。「聖宝僧正渡一篠大路図」は、『宇治拾遺物語』をもとに、東大寺の僧聖宝がけちで貪欲な僧に賭け事もちかけ賀茂祭にふんどし姿で一条大路を渡るという難題をやったので、大衆に供物がほどこされるに至った説話を描いた作品です。(佐野市郷土博物館 町田卓美)



## 会長挨拶

佐野市文化協会会長 海老原 脩治

佐野市文化協会は、平成17年の1市2町の合併に伴い新たな文化協会として発足し、今年度で21年目を迎えることになりました。昨年の総会において私が第六代の会長に就任しました。微力ではありますが、佐野市民の皆様のご理解を得て、会員とともに協会の発展と文化芸術の発信に向けて取り組んでまいります。

佐野市には豊かな自然と、誇るべき文化遺産、文化財、伝統芸能や伝統工芸などがあり、保存継承されてきました。

しかし、観たい美術展や展覧会等のほとんどが、東京都内で催されており、私たちはとすると、都会は何と文化的に豊かなのだろうと思いがちです。ただ、大都会にある美術館の企画展等は人が多く、鑑賞しにくかったりします。

一方、私たちが住んでいる地方で、静かな環境で鑑賞することは、人混みから美術品等を垣間見ることでは得られない心地よさや特別感さえあ

ります。文化的豊かさは、地方も都会に負けていないといえるでしょう。

私共文化協会では、①17部門による市民文化祭の開催、②芸術文化ふれあい事業として、小・中学校向け出前講座、イオンde文化のまつり、市民ギャラリーを活用した公演・講座・展示等の開催、③佐野市長との意見交換会・佐野市の文化行政に関する提言などを実施、ホームページの活用や「さの文化」を発行し広報活動にも力をいれております。

地域の文化や歴史について、私達は過去に学び、現在地を確かめ、未来へ歩みを進めてきました。このことは先人たちが、その営みを連続と続けてきたことです。

私共文化協会は、佐野市の文化や歴史そしてその魅力を知ること、「佐野愛」を深め、市民としての誇りを醸成する取り組みをすすめてきました。今後も最大限の努力をいたします。佐野市民の皆様のご理解と御協力をよろしくお願いいたします。

ごあいさつ

文化推進課長 村井 健一

日頃より、海老原会長をはじめ会員の皆様には、本市の文化芸術の振興に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本市におきましては、皆様の長年にわたる文化活動へのご尽力により、多様な豊かな文化芸術が育まれてまいりました。私は今年度、いくつかの部門の文化祭を鑑賞させていただきましたが、いずれも日頃の活動の成果を十二分に発表されており、深く感銘を受けました。このような日々の研鑽と地域に根ざした文化活動は、市民の皆様が潤いと感動を与え、豊かな地域社会、づくりのための大きな力でございます。

本市といたしましても、文化芸術の振興と発展のため、皆様の活動がより一層活発になりますよう誠心誠意、努力する所存でございます。引き続き、文化協会の皆様からのご指導ご鞭撻、そしてご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、文化協会の益々の発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## 令和7年度 総会が行われました

5月16日に佐野市中央公民館で開催し、金子市長、菅原市議会議員、岡部県議、横田県議をはじめご来賓のご臨席を賜りました。

議長に大川理事(歴史部門)を選出し令和6年度事業報告と令和7年度事業計画・予算の承認を得た後、第六代会長に海老原脩治様を選出いたしました。

監事として新しく  
瀧川英夫  
様(民謡)、  
奥澤修一  
様(絵画)、  
常任理事  
として山  
根一也様  
(音楽)が  
選出され  
ました。



## 芸術文化ふれあい事業

### イオンde文化のまつり

イオンモール佐野新都市店で11月3日に文化協会主催のステージ発表やワークショップを開催しました。11時のハーブ演奏に続きお茶会・演劇公演・コーラス・ブラス演奏が賑やかに披露され、それぞれ立ち見ができるほどの盛況ぶりでした。ワークショップでは似顔絵コーナーや水彩画教室、篆刻の紹介など子供から大人まで楽しんでいただきました。

参加団体は、エンジェルハーパーズ／高橋宗幸社中／さの演劇塾／ハーモニー&さくらコーラス／パセリウインドオーケストラ／日本水彩画会安足支部佐野地区会／佐野箏会。



### ハーモニー&さくらコーラス

コーラス演奏では界地区公民館と植野地区公民館で別々に活動しているグループが合同で元気いっぱいいの歌声を披露しました。曲に合わせてス

テップを踏みながら会場の皆様と一緒に盛り上がり楽しい時間を過ごすことができました。これからも音楽の楽しさを伝えられるパフォーマンスをお届けしたいと思います。(新里一恵)

令和8年度予定

イオンde文化のまつり

11月3日(火・祝)

○ステージ発表・生け花体験  
○ワークショップ

似顔絵コーナー他

会場 イオンモール佐野新都市  
セントラルコート

### 市民ギャラリー活用

邦楽八景舎第13回公演

「邦楽 温故知新」

始まりは2017年5月の演奏会で

グループ名も決まっています。

三味線、箏、映像で日本の音の美しさを後世に伝えていくことを目標として結成した三人の公演は、邦楽の世界を音と

映像で作る新しい感覚の演奏会となり好評を得ました。

翌年には名前を「邦楽八景舎」とし、時に助演

者も交え、音に



彩を増し、舞台づくりに工夫を重ねています。市民ギャラリーでの公演は、2026年で9年目となり、10月10日(土)午後2時からの予定。来年10周年の公演は更に趣向を凝らしたいと思います。

### 高校生のための茶道教室

第3回ふるさとの銘品に出会う会

— with 高校茶道部

令和7年11月30日(日)、(財)人間国宝田村耕一美術館(閑馬町)において茶道体験教室が開催され、佐野高校・佐野東高校・佐野松桜高校・佐野日本大学高校の各茶道部員・顧問・指導者等40名程が参加致しました。

この美術館には本格的なお茶席(4畳半台目席・8畳広間席)が整備されており、日頃はなかなか利用が不可能な4畳半台目席で茶華道協会茶道部会員の協力のもと、参加者には躰の使い方、入席から退席までの所作等をお茶会形式で体験して頂きました。

田村耕一造の銘々皿に和菓子をもて、同じくお茶碗で抹茶を全員が頂き、皆さん大喜びでした。

また、天明釜について作家の方々に話を伺いました。

この行事は生徒や先生方にも大好評で、来年も是非伺いたいとお声を頂いております。

これもひとえに、美術館の島田文男館長、金子裕市長、文化推進課職員の皆様の「尽力のおかげ」と感謝致しております。

(茶華道協会会長 荒井宗佳)

### 団体情報交換会を開催

今年度は9月10日(水)に市役所市民活動スペースで開催しました。会員数を伸ばした部門や団体代表者の方に、会員を増やすために取り組んでいる内容や活性化の課題などを説明いただきました。その後、フリートークキングで活発な議論を行いました。発表者は音楽部門、あおい会、佐野ぼそこん倶楽部です。



新規加入団体は

【音楽】ハーモニー&さくらコーラス、城北ジュニアウインドハーモニー、コーラス花

【洋舞フラ】ホクレアです。

どうぞよろしく願いたします。

# わたしたちの文化活動

令和7年度 市民文化祭

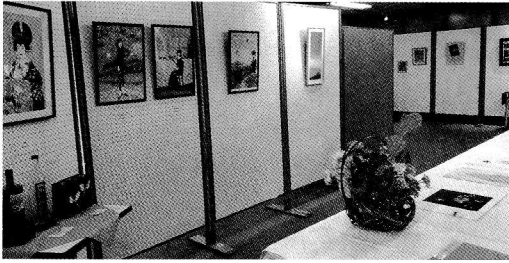
前期：4/18～9/15  
後期：10/5～12/14

各部門の活動をご紹介します。  
ただ今、会員募集中です。

## パソコン

### 市民文化祭 (パソコン部門)

今回のテーマは「物語る」。おじいさん・おばあさんのイラストや鳥獣戯画をモチーフにした楽しい作品と昔話などが並び、来場者の笑いを誘っていました。作品展は11月7日から3日間市民ギャラリーで開催しました。イラストや



詩画・写真・仏画などの他に、今年度は佐野ばそこん倶楽部が設立25周年を迎えたことから、これまでの力作も展示しました。作品をご覧になるお客様の楽しそうな笑顔が印象的でした。来場記念として、今回も可愛らしい小物を用意させていただきました。ご来場ありがとうございました。

(小山 武)

## 演劇

### 第15回公演 「卵の中の白雪姫」

今回の公演は、私自身初の可愛い役だったので、役作りは衣装からこだわって入っていました。



ただ実は今回の公演はピンチの連続でこのままでは上演できないのでは？というところまで追いつめられていました。しかし事態は急転、色々ありましたが無事に上演する事ができました。私は最初半分諦めていたのですが、皆で作

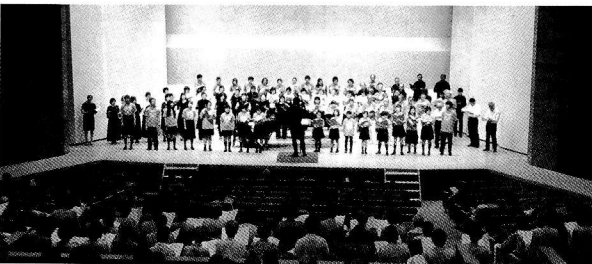
上げたものを出せないのでは後悔すると思いき、新たな気持ちで取り組みました。そして公演にこぎつけられたことを本当に嬉しく感じました。今回の公演でした。

(浅賀京純)

## 音楽

### 市民音楽祭

第19回佐野市民音楽祭は、7月27日(日) 葛生あくとプラザで合唱部門9団体、合奏部門8団体、ゲストとして「KOTONOHA DUO」(佐野市出身の樋口さゆりさんと名古屋市出身の日比彩湖さんのパークッションデュオ)を迎え、さらに昨年の合奏部門の合同演奏に加えて合唱部門も合同演奏を聞かせてくれました。



演奏会でしたが、どの団体も瞬間の緊張感と豊かな表現力で、演奏者と観客とが一体となった素晴らしい日曜午後のひと時となりました。

音楽を楽しむ老若男女が一堂に会し、これからの佐野市の音楽文化(合唱・合奏)をより高く豊かなものにしていくという気概を強く感じた音楽祭でした。

(山根一也)

## 歌謡

### 第21回 秋の文化祭を終えて (田沼歌謡愛好会)

田沼歌謡愛好会の発表会は、令和7年12月14日に田沼中央公民館で金子市長、文化協会海老原会長、横田県議をはじめ多くのご来賓をお招きして10時より始まりました。市長よりご祝辞を頂戴した後、主催者を代表して海老原会長よりご挨拶がありました。横田県議におかれましては「氷雨」を熱唱いただき会場を大いに盛り上げていただきました。

午前の部は全30曲。午後の部を合わせて全85曲が披露され、会場は最後まで熱気に包まれました。なお令和7年度に行った発表会

でご来場の皆様にご協力いただいたチャリティの全額7万2178円を文化協会の賛助金として寄付させていただきました。

(須藤澄男)

### 華道 心とむ生け花

市役所市民活動スペースで「華道展」を4月27日(日)・28日(月)に開催しました。日和良くお茶会席や訪日観光客、散策者、市役所利用者、職員と多くの方々に6流派42名の出瓶作品に時を忘れる程心置きなく楽しんでいただけました。季節感いっぱいの大作や伝統的な美しい力作等、多種多様な枝草、花を愛でながらインスピレーションやイマジネーションを広げる豊かな時間を提供することができました。



ピーに季節のお花を飾っています。ぜひ観ていただければと思います。

(大門美翠)

### 絵画 二つの絵画展

12月に絵画の作品展が二つ続きました。佐野市民文化祭と両毛五市美術展。前者(会場：葛生あくとプラザ)は三つの絵画団体を中心に、だれでも申し込みできるもので、毎年の恒例になっています。今年の出品数60余点。後者は佐野・太田・足利・桐生・館林の5市持ちまわり制で今年は大田市が会場。佐野市は6作品を展示しました。両会場ともに、見ごたえのある作品ばかりで、鑑賞者として充分に堪能できました。



ひとつだけ思うにまかせないことがあります。総じて減少傾向にあること。出品数が増えるよう努めていかなければならないと思います。

あること。出品数が増えるよう努めていかなければならないと思います。

(奥澤修一)

### 舞詩剣詠吟 佐野吟詠詩舞道協議会活動について

私達の学ぶ吟詠詩舞は、古來、花鳥風月や喜怒哀楽、史事などを詠んだ漢詩や和歌を高らかに吟じ、優雅にあるいは勇壮に舞うものです。

佐野吟詠詩舞道協議会は、三十数名の会員を有し、吟詠部門に3会派、剣詩部門に3会派が切磋琢磨してお互いの技術向上に努め、年間の2大イベント、春6月29日(日)第21回佐野市民文化祭で日頃の練習成果を披露しました。また、秋には11月16日(日)の館林市での第31回両毛五市吟詠詩舞交流大会で、各市の愛好者の皆様と共に演技の発表や交流を深めました。

(石井正崖)

### 工芸 市民文化祭工芸展

本年の工芸展は、9月13日~15日の3日間、道の駅どまんなかたぬま大ホールで開催致しました。秋晴れの中、多くの方にご来場いただきました。展示作品は、光のページェント(ステンドグラス)、色と香りと可愛い(石ケンアート)、色彩鮮やか(ツールペイント)などの他に百点以上の作品が展示されました。中には大きなパッチワーク作品の前で足を止め、感動したお客様もありました。また会員の方々は、早くも来年に向かって活動を始めていますので、応援のほどよろしく御願ひ致します。



(柳 誠)

# 写真

第21回  
佐野市民文化祭  
写真展

市民文化祭

写真展は、11月23日・24日の2日間、全日本写真連盟関東本部委員である新井傳先生を審査員にお迎えして開催されました。



公開審査と  
いうことで、  
出品者は皆ド  
キドキしながら審査を見守って  
ました。文化賞は「男の背中」と  
いう作品が選ばれた他、準文化賞  
1点、奨励賞3点の計5点が入賞、  
15点が入選しました。  
年々作品応募数が減少傾向にあ  
りますが、スマートフォンでも素  
敵な写真が撮れる時代です。気軽  
に写真を楽しんで頂ける市民の方  
が一人でも多く増えて欲しいと  
願って止みません。

(齋地和男)

# 書道

書の伝統をつなぐ

佐野市書道連盟では、毎年佐野

市民文化祭書道展、秀郷まつり子  
供書道展を開催していますが、文  
化会館展示室が使用できないため  
葛生あくとプラザを使用しました  
が、搬入・搬出が大変でした。

しかし、先生方の努力によつて、  
若者が協力してくれるようになった  
のです。若者のパワーと融通には本  
当に感動してしまいました。

また、若者たちの個性あふれる  
作品にも目を見はりました。

書道をやっている人は、筆順や造  
形そのものも、正確に覚えられると  
言われます。一画一画丁寧に意識  
すると記憶が定着するのでしょうか。

書の伝統をいつまでも守るため  
に、一人でも多くの方の入会を希  
望します。

(四家汐屋)

# 茶道

一服のしあわせ

四月の穏やかな一日。茶室では、

季の掛物、お花、道具組でお客様

をお迎えします。春の日ざしの中、

一期一会の出会い。和やかな会話  
そして一皿の菓子と温かい一服の  
抹茶。日頃の多忙をひととき忘れ  
のどを潤す。そんな一椀の抹茶

に、お客様には、いか程かご満足  
をいただけたでしょうか。私たち  
も、笑顔のお客様を見送って一服  
のお茶にしあわせをいただきました  
。会場の都合で、茶席に入れな  
いお客様の御不満もありましたが、  
多くのご参加に、茶道部としても、  
当番席主としても、充分に感謝し  
ております。

「議場茶会」

12月5日、市議会定例会前に議

場茶会（市

議会主催）

が開催され、

佐野市茶華

道協会茶道

部が亭主を

務めさせて

いただきました。

当日は佐

野市の伝統工芸品である天明釜を

使用し、日本の伝統文化であるお

茶席を体験していただきました。

(小林宗恵)



# 文芸

あそ野短歌会

第21回佐野市民文化祭短歌会を

令和7年11月21日午後、市民活動  
スペースCにて開催致しました。  
その折の短歌が左記となります。  
○朔日つひたちの灯明に榊のみどり映えか  
しわ手の音澄みて十月

笠井 和子

○沢水にサイダー冷やせし遠い日  
の山裾いまは紅葉もみじのころか

大河原ミキ子

○幾年いくとせを見守り越しや「時の鐘」  
静かに小江戸の定位置に座す

田所 妙子

○財たつきなさぬ生活たつきにあれど恙つつがなく幸  
かみしめて八十路を生きる

内田美代子

月例歌会は第三金曜日の午後  
行っております。

(原田靖子)

# 邦楽

もうすぐ春。  
邦楽を楽しみませんか。

11月2日、葛生あくとプラザ大

ホールで開催した「邦楽と詩舞の  
会」では、各社中が計17曲を熱演

しました。

各部門について簡単にご紹介します。

○長唄 三味線・唄に分かれて演奏します。息の合った三味線群と端正な唄の格好よさに惹きつけられます。

○箏曲 箏・三味線を弾きながら唄もうたいます。美しい音色と曲の「物語」をお楽しみください。

○詩舞 漢詩に音楽を付けて吟じる「吟詠」に合わせて舞います。華麗な衣装も見どころです。

次回は、令和8年4月26日（日）葛生あくとプラザ大ホールです。春のひとときをぜひ一緒に。

（古橋美紀悦）

### 邦舞 第21回 佐野市民文化祭 邦舞部門開催

日に日に秋の深まりを感じる11月16日、葛生あくとプラザにて、邦舞部門の文化祭を開催いたしました。

多くのお客様にお越しいただき、日頃のお稽古の成果を



存分に発揮した華やかな舞台をお楽しみいただきました。

今回は幕間に、さの秀郷太鼓保存会の皆様に迫力ある演奏をご披露いただき、華を添えていただきました。

邦舞部門一同、心より御礼申し上げます。

これからも指導者として精進し、日本の伝統芸能である日本舞踊の魅力を伝え、より一層の普及、発展に貢献出来るよう活動していく所存でございます。（三喜 英）

### 洋舞バレエ 第21回 佐野市民文化祭 洋舞バレエ部門

令和7年6月29日、葛生あくとプラザに於いて、第21回佐野市民文化祭・洋舞バレエ部門の発表を行いました。佐野市民文化会館の改修工事のため、あくとプラザでの開催は2回目。客席数が少ないので、多くのお客様に観ていただけませんが、舞台との距離が近く、迫力ある舞台をお送りできたと思います。開幕に先立ち、金子佐野市長よりご挨拶を頂きました。サンセレスソバレエ&スペイン舞踊スタジオはフラメンコとバレ

エを、クラシカルバレエアカデミーS.O.C.はクラシックバレエの作品を上演しました。

最後はタンバリンを使った「ナポリ」で華やかに締めくくり、気温も舞台も客席も、暑い暑い1日となりました。（藤田真砂子）

### 洋舞フラ 輝けフラガール

佐野市民文化祭洋舞フラ部門の発表会が10月5日葛生あくとプラザにて開催されました。今回で第20回目となり

大盛況のうち  
に終えること  
ができました。  
これもひとえ  
に諸先輩方の  
フラに対する  
熱い思いと御  
指導のおかげ  
と感謝してい  
ます。これからも次にバトンを継  
ぐべく、会員一同力を合わせてが  
んばっていきますので皆さんよろ  
しくお願ひします。幸い若い団体  
の加入もあり心強い限りです。



（阿部妙子）

### 歴史研究 第41回 安蘇の風土と歴史講座開催

安蘇史談会・佐野市文化協会主催の「第41回安蘇の風土と歴史」を7月に佐野市中央公民館で開催しました。第1回「唐澤山城の歴史」第2回「両毛鉄道と安蘇馬車鉄道・佐野鉄道」第3回「太田南畝と新楽閑叟」江戸第一の文人と佐野出身の探検家・医師」第4回「燈塚町の古代から現代まで」伝承の世界を含めて」を開催しました。

猛暑にもかかわらず、今回も延べ527名という多数の受講者に参加して頂きました。佐野市だけでなく、宇都宮市、足利市、栃木市そして他県からも多くの市町からの参加を嬉しく思っております。またこの講座は、参加の方々のご理解とご協力によって支えられていると、あらためて認識しました。



（大川圭吾）

## 文化協会 視察研修会に参加して

令和7年度の視察研修会は11月27日（木）に行い、36名の会員の皆さんが参加しました。

今回の視察研修会では、東京国立博物館で開催されている特別展「運慶 祈りの空間―興福寺北円堂」を見学しました。奈良・興福寺の北円堂は、鎌倉時代を代表する仏師・運慶晩年の傑作として広く知られています。北円堂は通常非公開ですが、修理完成を記念して約60年ぶりに寺外公開が決定しました。7軀の国宝仏を一堂に展示した奇跡的な企画です。研修会に参加された皆さんも、運慶の力強い仏像に圧倒されたようです。また各自が特別展を観た後に一般展示についても見学しました。



見学後に豊洲で昼食をとり、その後豊洲先客万来で各々が再現された江戸前の古い街並みを散策しました。それから日の出棧橋まで行き、水上バスで浅草まで移動してバスに乗り換えて佐野まで帰りました。

実り多い視察研修ができたものと考えております。令和8年度も予定しておりますので多数の参加をお待ちしております。

（大川圭吾）

## パソコンオープン講座

市民向けのパソコン講座を市民ギャラリーで全5回開催しました。内容は初心者を対象に楽しく学べるように工夫しました。令和8年度も実施しますのでぜひご参加ください。詳しくはホームページをご参照ください。

文化協会では今後もいろいろな講座を開催したいと考えております。

（小山 武）

### 令和7年度講座内容

- ①写真撮影の極意
- ②チラシ制作の極意
- ③ハイセンスな文書
- ④イラスト制作
- ⑤いまさら年賀状

## 佐野の文化人

ファゴット奏者・指揮者

鈴木 明博さん



今回登場の文化人は鈴木明博さんです。鈴木さんはプロのファゴット奏者・指揮者です。現在佐野市内に常設のオーケストラを作ろうと尽力され、「佐野交響楽団」の特別演奏会が令和7年10月19日（日）葛生あくくとプラザ大ホールにて超満員の観客を迎えて行われました。クラシック音楽の楽しさが十分味わえたコンサートでした。

鈴木さんは浜松市出身で2008年から佐野市にお住まいです。高校時代にファゴットを始め国立音楽大学に進まれ、在学中に新星日本交響楽団に入団。退団後東京シティ・フィルハーモニックに入団し2022年まで在籍されました。現在一橋大学管弦楽団、栃木フィルハーモニー交響楽団等のトレーナーとして指導

## 文化提言

文化協会では、3月に佐野市に対して文化行政に関する提言書を提出しました。

内容は次のとおりです。

- 一、文化芸術に親しめる環境づくりに関して
- 二、伝統文化・郷土芸能・文化財等に関して

にあたり、2025年度から国学院栃木高校吹奏楽部講師に就任されています。これまで佐野市文化会館や葛生あくくとプラザ等でのオーケストラ演奏でたびたび指揮され、市民には知られていない方と思います。また令和6年2月25日文化協会主催のさの文化の祭典でのファイナルで指揮された大オーケストラ演奏は観客の心に強く残っています。

鈴木さんは、県南4市で佐野市にだけオーケストラがない、なかなかプロも含めてオーケストラ演奏会の開催も少ない、市民の皆さんにもっと身近にオーケストラの音楽を楽しんでもらいたいとオーケストラを立ち上げたとのこと。「佐野交響楽団」は他とは違う佐野独自のオーケストラにしたいと語っています。佐野市民として大いに期待したいと思います。

2回目の演奏会を令和8年9月27日（日）葛生あくくとプラザ大ホールで予定しています。運営には予算確保、演奏メンバー確保、練習場所はじめ難しい問題が多いが皆様の理解、協力をいただきながら頑張りたいと話されておりました。

（廣瀬 裕・題字は飯田景月氏）

### 三、市の文化行政に関して

今回ご提案させていただいた内容は、佐野市で育まれた文化を継承するとともに、未来に向けて進化させたいという会員の強い思いが込められたものですが、実現には行政との連携が必須と考えます。具体的な取組へご理解とご支援をお願いいたします。

提案内容については、市行政の幹部の皆様と意見交換を行いました。

## 栃木県文化振興大会

第49回栃木県文化振興大会に参加

2月13日に大田原市（那須野が原ハーモニホール）で行われた大会に佐野市から21名が出席しました。

式典の後に合唱や箏曲演奏、郷土芸能が披露され、黒羽餅つき唄保存会の演目では会場で餅が配られて盛り上がりました。作品展も同時開催されておりました。

○令和7年度の受賞者

文化選奨

小久保裕氏（洋画）

文化奨励賞

川島史也氏（彫刻）



## 両毛五市文化協会交流事業

足利・桐生・太田・館林・佐野市の文化協会では、毎年美術展や民謡民舞交流大会、吟詠剣詩舞交流大会を行なっています。

今年度は美術展が太田市、民謡民舞大会は足利市、吟詠剣詩舞大会は館林市で行われました。また年2回交流会議を行っています。



今年度第2回会議は12月17日に太田市で行われました。出席者全員の自己紹介では、改めて色々な部門の代表の方がおられるとの印象を受けました。特に太田市では組織の中に分担役職として、造形部・芸能部などと区分されていることに興味を持ちました。議題では各市文化協会の活動状況の発表があり、それぞれに特徴があるものの共通している事業は文化祭、研修会などです。個別には佐野で実施しているイオンde文化のまつ

りに興味を持たれ、開催の経緯などについて質問があり活発な意見交換がなされました。会議終了後懇親会が催され、相互に親交を深めることができました。

令和8年度の吟詠剣詩舞交流大会は佐野市で開催されますので皆様のご来場をお待ちしております。

（村田安旦）



令和8年度吟詠剣詩舞交流大会  
日時：11月22日（日）  
会場：葛生あくとプラザ

## 県南文化協会交流事業

県南地区の文化協会（小山市・下野市・栃木市・足利市・壬生町・野木町・佐野市）では年2回、交流会議を開催して活動内容の紹介や課題について情報交換を行っています。令和7年度は7月と1月に実施し、佐野市に関してはイオンでのイベントや文化提言などについて質問があり、活発な議論が行われました。



## トピックニュース

協会にゆかりのある皆様のご活躍についてお知らせします。各分野での輝かしい活動と実績に敬意を表します。

（敬称略）

○第79回栃木県芸術祭美術展

書道部門 入選

青木陽山 川島桂舟  
桑子暉永 中村晃雅

洋画部門 入選

小竹 昇

○第50回秋耕展（写真）奨励賞

齋地和男

受賞おめでとうございます。益々のご活躍をお祈り申し上げます。令和7年度は日展（書）の会友に大竹汎泉様が推挙されました。

中山ひらか 吉田暉月

コラム

ふるさと佐野が育んだ

歴史画家 小堀鞆音

帝京科学大学教授  
一般財団法人桂石文化振興財団理事  
小堀鞆子

このたびは佐野市文化協会より、佐野市の皆様に、私の曾祖父である歴史画家・小堀鞆音をご紹介する機会を頂戴しましたこと、心より御礼申し上げます。

小堀鞆音は文久四年（一八六四）、下野国安蘇郡小中村（現・佐野市中中町）に、須藤惣兵衛の三男として生まれ、桂三郎と名付けられました。農業の傍ら職の武者絵や絵馬を描いた父（晏斎）、南画風の山水を描いたという兄（桂雲）の影響を受け、幼少より絵に親しみます。同時に国学や漢学も修め、学問への関心も深めました。二十一歳で上京し、有職故実を重んじた師・川崎千虎に師事して歴史画の修養を積みます。その後、東京美術学校（現・東京藝術大学）の教授として教鞭をとりながら多くの作品を制作し、晩年には明治神宮外苑の聖徳記念絵画館に三点の壁画を納めるといふ大任を果たしました。

東京に出てからも、故郷佐野との結びつきは変わることがありませんでした。池澤定吉翁をはじめとする地元の方々を支えられ、佐野にも多くの作品を遺しています。池澤家とは、鞆音の生家跡へ平成八年（一九九六）に顕彰碑を設置した際、当時の佐野市教育長だった池澤嘉夫様に顕彰会の会長をお引き受けいただくなどの

ご縁がありました。その他、小中町の人丸神社には、御祭神である柿本人麻呂の肖像を奉納しました。田沼町の一瓶塚稻荷神社には、少年時代に漢文を学んだ師であり、同社宮司でもあった亀田櫻園の記念碑に肖像を描いています。

とりわけ深いご縁があったのが、郷土の偉人・田中正造翁です。生家が近かったこともあり、長年にわたり親交を結びました。鞆音が黒羽藩士小山田弁助の娘・鈴子と結婚する際、媒酌人を務めたのも田中正造でした。鞆音は正造翁の志に深く共感し、没後には墓碑に翁の生前の姿を写した肖像を寄せています。この肖像は、現在小中町の生家跡の石碑に見ることができます。

鞆音の作品は、葛生町の吉澤記念美術館や栃木県立美術館に多く収蔵されており、また、東京藝術大学にも「武士（もののみ）」「経政詣竹生島」「常世」などの作品が伝わっています。「常世」は、下野国佐野庄の貧しい武士であった佐野源左衛門が、放浪僧に身をやつした北条時頼をそれと知らずにもてなした逸話を描いたものです。歴史の一場面を、まるで映画の一瞬のように鮮やかに切り取り、その奥にある人間の善意や精神性を描き出す――そこに鞆音の真骨頂があるのではないのでしょうか。

皆様にもぜひ機会がございましたら小堀鞆音の作品をご覧いただき、郷土佐野から生まれた一人の画家が描こうとした、日本人の心のありようを感じ取っていただけたら幸いです。

佐野の名所・旧跡案内

人丸神社

第5回

「手洗へてみなくちそそぐ田毎にぞ

いのるみなかみ 人丸の水」

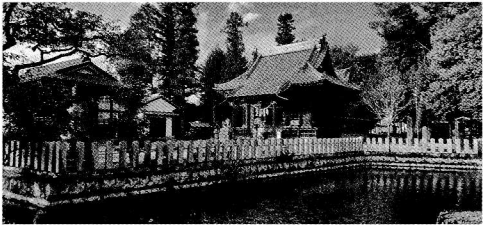
一九一三年六月一日 正造  
人丸神社は万葉の歌人、柿本人麻呂を祀る神社で創建は七二三年です。二年前には、一三〇〇年の式年祭が行われました。境内は江戸時代に奉納されたとされる石鳥居や石灯籠が並びます。佐野市指定の天然記念物である池には、錦鯉が元気に気持ち良さそうに泳いでいます。拝殿には小中町出身の日本画家・小堀鞆音の作品である「柿本人麿神影」が描かれ、天井には鞆音の父・須藤安齋による花鳥風月の絵が貼られています。

拝殿に向かう石の廊下の右側には燈籠があります。その燈籠には、上司暗殺の嫌疑をかけられ正造の無実を信じて正造の妻カツがお百度参りをしたと伝えられています。これは明治になってからのことです。そして人丸の池に入りカツが行水をしたという言い伝えもあります。正造にとっても関わりの深い神社です。一方、正造は明治一三年頃、古くて損傷が多くなっ

た神社の屋根を修理するため「待宝講」を造り、その世話人をしていました。待宝講とは修理資金を集める金庫です。

冒頭の正造の唄は田植え前の水不足で農家の人は非常事態の為、池の水がもつと湧水によって増えることを願って唄われたものです。この唄は正造の最晩年のものです。人丸神社の池は才川の源流であり、流域の農作物の豊かな収穫を得るために流れています。川の流れば並木町を下り免鳥町・大橋町・田島町・椿田城跡の土手周辺に注ぎ渡良瀬川へと合流します。その合流地点には正造の終焉の地の庭田家があります。才川の流れば、正造の生誕の地から終焉の地で正造の人生と重なります。人丸の水は流域に住む人々の生活を豊かに潤し渡良瀬川に注ぎます。しかし現在、都市化の波で周辺は住宅が建ち、伏流水が枯渇し湧水が年々歳々少なくなってきました。それは本当に寂しい限りです。

（坂原辰男）





令和7年度 (令和8年3月現在)

# 賛助会員紹介

本会へのご支援ありがとうございます。  
ご協力いただきました会費は当協会の大切な活動費として、  
文化の振興に有意義に活用させていただいております。  
今後ともご指導ご支援の程よろしくお願ひいたします。



認定こども園 愛育幼稚園	加藤米菓本店	黙+あさひ 山崎好一	ファンテック(株)
青木 勇	金井千代子	関根真知子	(株)フェドラ <small>代表取締役</small> 陳賢徳
(株)青木建設 <small>代表取締役</small> 青木光男	金子 玲月	浅間神社	福田建設(株)
青村 孝風	亀田 清	洗心幼稚園 認定こども園	(有)ふみきり寿司
(有)秋野印刷	川島 紫紅	惣宗寺 旭岡靖人	古橋 宗智
アスタリスク・ミュージック 小山洋子	(株)河西	早乙女 務	寶龍寺 小林慧瞬
安蘇印刷(株)	菊澤 洋之	第一酒造(株)	(株)ホクサン
安蘇重工(株)	機能訓練デイサービスステップわかば	大門 美翠	星宮神社 新村貢一
荒井 宗佳	(株)木村土建	高橋 宗幸	(株)ホテルー乃館 <small>代表取締役</small> 尾花栄
安藤 儀一	黒澤 宗光	武田 宗園	ホテルサンルート佐野
飯田 景月	興福寺 吉留隆道	田沢工業(株) 田澤秀文	(株)丸山工芸社
市川 一桂	小熊勝一郎	田中税理士法人	(有)味噌まんじゅう新井屋
犬伏とみや 三富良子	小熊 ナヲ	田沼歌謡愛好会	三田 静穂
岩崎喜美子	小寺 宗枝	田沼 清	聖妙音寺学園 認定こども園 育成能幼稚園 荒居養雄
エヌケーケー(株) <small>代表取締役</small> 田部井盛道	小林会計事務所	田村 宏司	村檉石灰工業(株)
海老原脩治	(有)ゴミタ印刷	<small>代表取締役</small> 常盤福社会	村田 安巨
遠藤紫芳庵	小山 武	栃木県総合書道センター	(株)茂木設計 <small>代表取締役</small> 茂木弘司
遠藤 節仙	斉藤 幸枝	(株)どまんなかたぬま	茂呂 朝花
大阿久則子	西林寺 瀧口琢也	呑亀幼稚園	矢澤 敦子
大川 圭吾	佐藤 宗陽	(株)永沢緑花苑	やじま印刷(株)
(株)扇屋 石倉大	佐野ケーブルテレビ(株)	永島 由江	安原 高次
(有)大串銃砲火薬店	佐野写遊	<small>代表取締役</small> 翼望会 長島医院	山本 千晴
大竹 汎泉	佐野商工会議所	新楽 峰春	吉澤慎太郎
岡安 祐璃	佐野東石美術館	西川由美巳	吉澤石灰工業(株)
奥澤 修一	佐野ユネスコ協会	拜崎 宗幸	ヨシダ電気工事(株)
小倉 光雄	(株)佐野ラーメン本舗上岡商店 上岡一雄	花きち生花店	若柳 緑
小関 清泉	島田 文男	花柳瀧三郎一門会 花柳瀧三郎	若柳美幸野
落合 宗法	(株)秋栄堂	平林 宗栄	渡辺 梨静
小野 理浩	書道研究 芳洲書院 大芦芳洲	廣瀬 恵子	(敬称略・順不同)
片山 弘美	諏訪 悠崖	廣瀬 裕	

## 編集後記

おだやかな天気の中で明けた令和8年ですが、いつのまにか2月になり第51回衆議院議員選挙が極寒の中で行われ、ほぼ同時期にミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開催されました。このオリンピックでの日本選手の活躍は素晴らしい、喜ばしい限りです。

そしていつのまにか春満開となり、ここに「さの文化・第21号」を佐野市の皆さんにお届けすることができました。編集委員の方々の活発な意見を取り入れて編集しましたが、もっと良くするためにも皆様方のご意見をお寄せください。

(大川圭吾)

## 編集委員

委員長 大川 圭吾	委員 石塚 恵子	委員 森田 和子
副委員長 古橋美紀悦	委員 飯塚 正江	委員 原田 靖子
委員 吉田 栄子	委員 小暮 萌竹	委員 遠藤紫芳庵
委員 齋地 和男	委員 山根 一也	委員 新楽 峰春
委員 山根 一也	委員 小山 武	